



自治体助成金を利用する 介護リフォーム

地域	システム名（事業者名）	支援方法	介護保険 住宅改修費	住宅改修 （実質最大）	補助対象者要件
神戸市	住宅改修助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 身介支 その他要件あり
明石市	高齢者等の住宅改造費助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 身介支 その他要件あり
西宮市	人生いきいき住宅改造助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 身療介支 その他要件あり
芦屋市	住宅改造費助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 介支 その他要件あり
加古川市	住宅改造費助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 身療介支 その他要件あり
稲美町	住宅改造費助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 身療介支 その他要件あり
播磨町	住宅改造費助成事業	補助金	20万円	80万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 身療介支 その他要件あり
三木市	住宅改造費助成事業	補助金	20万円	30万円	所得600万円以下（給与800万円以下） 介支 その他要件あり

※各自治体とも、助成対象経費の額に対して、世帯の課税状況により助成率が異なります。

※住宅改造助成金の申請は、原則として1軒の家に対して1回限りです。

- 身 身体障害者手帳の交付を受けた人
- 療 療養手帳の交付を受けた人
- 介 要介護の認定を受けた人
- 支 要支援の認定を受けた人

介護認定、身体障害者手帳、療養手帳の交付を受けた方が対象の自治体からの助成金をご存じでしょうか？お住まいの不便や不安を取り除く為これらの助成金を上手に活用される事をお勧めします。自治体ごとに名称や要件が異なりますが、つむぎ建築舎近郊の自治体が行っている助成制度の一覧を作成してみました。三木市以外の自治体が、『介護保険住宅改修+自治体助成金』の合計が100万円となっています。但し、介護保険の住宅改修費（20万円）は使った分の残りは次回に繰り越す事が可能ですが、20万円に対して被保険者の負担割合（1/3割）は自己負担となります。20万円の工事を越える場合に申請することができなのが、**住宅改造助成金**（介護保険の自己負担割合とは別に、住宅改造の助成に対しては負担割合が世帯所得などに応じて変わります。また、その基準も自治体ごとに異なります。）ですが、こちらの申請は原則として1軒の家に対して1回限りとなります。

これらの助成金は、現在のお身体の状態に対して必要と認められる改修に対する助成となりますので、将来車椅子が必要になった時の為に、や知り合いがこの内容で工事されたからといって、ご自分にも認められるとは限りません。まずは、ご希望の内容をお聞かせ頂くことからスタートとなります。つむぎ建築舎では申請から工事まで迅速な対応を心掛けております。是非お声がけ下さい。

右ページでは弊社で良く施工させて頂く内容をお部屋ごとにまとめてみました。是非ご参考にして頂ければと思います。

つむぎがこれまでに施工させて頂いた介護改修の事例をご紹介します。ただ、これらは誰にでも当てはまる改修ではなく、お一人お一人の身体状態を自治体担当職員などが見定め、現地立ち合いの上で必要な工事内容を決めていく、というステップが必要なのです。生活の中で「ここに不自由を感じている」と思われるところがある方はメモなどに書き留めておき、準備をしておくことが大切です！

玄関

基本の基本は『踏み台』+『手摺』。これで難しくなったら次のステップ



古い住宅では玄関段差が大きく作られています。自分で動いて健康を維持できる間は『踏み台』と『手摺』で昇降運動を続けましょう。身体機能が更に衰えてきたら、玄関用スロープや段差昇降機などが有用になってきます。

扉段差

ちょっとした段差でも高齢者にはケガの元！スロープなら車椅子も安心！



扉の段差部分に式台を置いて対応していましたが、スロープを設置して段差を解消することにより、介護者、介助者共に安全な経路を確保することができました！



浴室



浴室は危険がいっぱい。十分検討しましょう！高齢の方が使用する浴室に大切なのは、転倒防止、立ち座り補助用の手摺り。その方の入浴方法にあわせて設置場所を決めましょう。また、滑らない床材にする、浴槽のまたぎ込みを低くする事もとても有効です。可能であれば高齢者用ユニットバスを設置できればなお安心です。

廊下等手摺り

使用する人の持ちやすい高さ、太さなどが合わないと宝の持ちぐされに！事前調査が大切。

身体が不自由になると家中に手摺りが必要になってきます。その方の身長などに合わせた高さや、握りやすい素材、太さなどを考えていきましょう。手摺りを付けることによってスペースが狭くなるデメリットもあるのでよく相談しましょうね。



トイレ

手摺りをどこに付けるかがポイント！相談してね

介護用のトイレは座面が高い方が将来的には安心ですので取り換えるなら検討を。手摺りの選定は、左右どちらに支障があるかなどをつむぎの担当専門家さんと一緒に相談して決めていきましょう。介助スペースを広めに取りればなお安心です。



外部段差



家に入る前の一番の難関、外部階段。握りやすく滑りにくい材質がおススメです。坂の多い地域によくある道路から玄関までの外部階段。玄関アプローチまでは手摺りを取り付ける、滑らない材質に変更する、などの対応が出来ます。それでも上り下りが困難になった場合は電動昇降機をも考慮に入れる必要があるでしょう。

その他、バリアフリー化項目として、和室をフローリングにして高さを合わせる、開き戸から上吊りの引戸に替えてレールの無いフラットな状態にするなどもあります。上肢が弱くなってきた方には、扉の握り球をレバーハンドルに替える、視覚障がい者の方には家具を固定式にする、など個々の障がいによって出来る事は沢山あります。どんなことでも一度ご相談下さい。